

親水基準プロジェクト

1 [何のために?] ねらいや効果

水はすべての命を支えています。多くの市民が命を支える水を再認識し、暮らしの中で身近な水辺を愛する気持ちになれる。そんなまちづくり。水辺はスローライフの1シーンとして、暮らしの癒しの場として、もっと魅力的になれると思います。親水基準。水に親しむ基準、そんな基準を創り、水辺のたたずまいをふるさとづくりに活かしていきます。



関連する環境指標 (詳細は資料編参照)
多自然型河川・親水公園等の整備箇所数

2 [何をいつどのように?] 具体的な進め方

1) 市民による親水基準をつくる

親水基準の設定と発表	A	●
五つ星などわかりやすい評価と結果の表示の検討	A	●

2) 親水度を調べ、水辺情景を選ぶ

市内水域の親水度調査の実施	A	●	●
各種水辺情景の選定とわかりやすい評価結果表示によるPR	A	●	●

3) 水辺情景をまちづくりへ活かす

選定箇所の表示看板や印刷物等による水辺情景への関心の醸成	A	●
水辺情景まち歩きなどの環境まちづくりイベントの開催	A	●

A: 市民主体・行政共働 / B: 行政主体・市民参加
17-20
H.16 21-25年度

3

[どこで?] 実施場所

日進市全域の川やため池

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 環境パートナーシップ組織（市民団体）
建設課、まちづくり推進課、環境課、水と緑の課（市）

市（行政）

水辺整備における多自然
型工法の推進
公共施設整備に伴う水辺
環境の創出
まちづくりへの活用検討
取組主体への支援

市民団体

プロジェクトの推進
イベントの企画協力

市民（滞在者等を含む）

水辺情景調査への協力
イベントへの参加

事業者

活動への協力

教育機関

専門分野での協力

市職員

専門分野での支援

注）：取組主体としての役割、：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

親水基準（案）

親水基準とは、水質基準と異なり、情緒的・感情的な視点での水辺環境を計る指標です。

<基本視点>

- (1) 水辺が生命にとって大切であること。
- (2) 水辺が人や暮らしにとって、精神的に大切であること。
- (3) 水辺がふるさと日進にとって（財産として）大切であること。

<意識基準>

- (1) 行きたくなる。
- (2) ふるさとの誇りになる。
- (3) 人に伝えたい。
- (4) 大切にしたい。

<評価指標>

- (1) 景色として美しい（借景も含めたロケーション）
- (2) 近づきやすい・過ごしやすい（周辺構造・自然度）
- (3) 水がきれい（透明度）
- (4) 生き物が多様（動植物の多様性・多孔質）
- (5) 子どもの遊び場としての環境（安全性も含む）



澄み切った水面が広がる鶴思慕池